

国内の外食産業 8 分野 6 4 業種を調査

- 2011年見込 -

**ファミリーレストラン、専門料理店でサイドメニュービュッフェ、オーダーバイキングが人気
 ステーキ・ハンバーグFR 1,732億円 (前年比112.0%)**

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、2011年4月～7月にかけて国内14分野128業種の外食市場を明らかにした。

今回は、ファミリーレストラン（FR）、喫茶、西洋料理店、日本料理店、東洋料理店、エスニック料理店、給食、宿泊宴会場の国内8分野64業種の外食市場について調査を実施した。

その結果を報告書「外食産業マーケティング便覧 2011（下巻）」にまとめた。

なお、ファストフード、ホームデリバリー・ケータリング、料飲店、テイクアウト、交通機関、レジャー施設の6分野の調査結果は「同(上巻)」でまとめている。

<注目市場>

ファミリーレストランや専門料理店などで、サイドメニュービュッフェやオーダーバイキング（テーブルで注文する食べ放題）が人気を博している。ステーキ・ハンバーグFRはサラダバーが人気となり、2010年から市場が拡大し、2011年には2桁増が見込まれる。焼肉料理店では、オーダーバイキングが人気となり2010年は市場縮小が緩和したもの、2011年は市場環境の悪化により縮小するとみられる。同じくオーダーバイキングが人気になりつつある、お好み焼き店、和風FRは2011年に市場縮小の緩和が見込まれる。

	メニュー	店舗
ステーキ・ハンバーグFR	サラダ、ライス、カレー、スープ等ビュッフェセット	「けん」「ステーキガスト」など
焼肉料理店	焼肉オーダーバイキング	「焼肉きんぐ」「ワンカルビPLUS+」
お好み焼き店	お好み焼きオーダーバイキング	「大阪梅田お好み焼き本舗」
和風FR	しゃぶしゃぶオーダーバイキング	「和食さと」「かごの屋」など

ステーキ・ハンバーグFR

2010年	前年比	2011年見込	前年比
1,547億円	106.8%	1,732億円	112.0%

2009年に、メインディッシュを注文するとサラダバーがセットでついてくるメニューを採用した、エムグランドフードサービス「けん」が人気となり、2010年は同様のスタイルを採用するチェーンが増加した。同時期に、FRのメニューの中でも人気のあるステーキ・ハンバーグ需要を満たしていた標準型FR（客単価850～1,100円）の店舗閉鎖が相次いだことから、需要がステーキ・ハンバーグFRへ流入し、微増が続いていた市場は前年比6.8%増と拡大した。

2011年は、前年から市場を牽引する「けん」と、標準型FRから業態を変更する形で新規参入したすかいらーく「ステーキガスト」が出店を拡大しており、前年比12.0%増の1,732億円が見込まれる。

焼肉料理店

2010年	前年比	2011年見込	前年比
5,602億円	99.8%	5,497億円	98.1%

2000年代中盤から縮小してきたが、2010年に物語コーポレーション「焼肉きんぐ」やワン・ダイニング

「ワンカルビPLUS+」などオーダーバイキングの店舗が躍進し、市場のマイナス幅が縮小した。2011年は、前年同様オーダーバイキングが好調を維持するとみられるが、ユッケ食中毒問題やセシウム汚染牛問題など、マイナス面で注目を浴びる機会が多く、市場は例年よりもマイナス幅が拡大し、前年比1.9%減(市場規模:5,497億円)が見込まれる。

お好み焼き店・和風FR

お好み焼き店は、店舗数、売上高共に減少が続いているものの、「大阪梅田お好み焼き本舗」のオーダーバイキングや「道とん堀 農園」のサイドメニューピュッフェなど新たな提供形態の出現により客単価が増加しており、2009年以降縮小している市場のマイナス幅の緩和が期待される。

和風FRでは前年比5%強で市場が縮小していたが、「和食さと」、「かごの屋」などでしゃぶしゃぶのオーダーバイキングメニューが人気となり、市場のマイナス幅が1~2%程度に緩和すると見込まれる。

<調査結果の概要>

分野	2010年	2011年見込	前年比	
ファミリーレストラン(FR)	1兆3,828億円	1兆3,700億円	99.1%	
喫茶	1兆4,177億円	1兆3,980億円	98.6%	
専門料理店	西洋料理店	6,957億円	6,862億円	98.6%
	日本料理店	2兆7,914億円	2兆7,077億円	97.0%
	東洋料理店	1兆3,169億円	1兆2,995億円	98.7%
	エスニック料理店	1,112億円	1,086億円	97.7%
給食	3兆6,551億円	3兆6,225億円	99.1%	
宿泊宴会場	4兆715億円	3兆7,675億円	92.5%	

ファミリーレストラン(FR)

2007年以降市場は縮小し続けており、2011年も引き続き厳しい状況は変わらないとみられる。しかし、ステーキ・ハンバーグFRやチャンポンFRなどが、新規出店や新たな提供形態の開発を進めることで新規顧客を取り込んでおり、FR全体としては例年よりマイナス幅が小さい、0.9%減の1兆3,700億円が見込まれる。

チャンポンFRは、リンガーハットが居酒屋風店舗やターゲットを女性に絞った店舗を展開するなど、新規顧客の開拓を積極的に行っている。

喫茶

2008年までは、セルフ式コーヒーショップが喫茶店・コーヒー専門店から需要を奪いながらも市場を牽引し、微増を保ってきたが、2009年よりマイナスに転じ、1~2%程度市場が縮小している。

その中で、「スターバックスコーヒー」や「タリーズコーヒー」などの高価格型コーヒーショップ(客単価400円以上)で2011年もプラスが見込まれる。

専門料理店【西洋料理店、日本料理店、東洋料理店、エスニック料理店】

専門料理店は高価格帯のところが多く、低価格帯のファミリーレストランやファストフードなどへの需要流出が続き、各分野とも減少している。しかし、その中でパスタレストラン、オイスターバー、ホルモン料理店、韓国料理店、点心料理店などの市場が拡大するとみられる。

オイスターバーは、客単価が5,000円程度と高価格帯に属するが、リピーター需要を着実に掴んでおり、市場としては大きくないものの、拡大を続けている。韓国料理店は、キムチブームや2002年の日韓ワールドカップ共同開催により韓国料理の知名度と人気上昇、韓流ブームやK-POPの普及などによりメディアで注目される機会も多く、今後も安定的に推移する見込みである。

東日本大震災の影響により、西洋料理、東洋料理、エスニック料理などの海外料理を提供する専門店ではシェフやショーのダンサーや楽器奏者が帰国するなどサービス提供に支障をきたした店舗も見られ、中でも中華料理店は個人経営の店舗の閉鎖が相次いでいる。

専門料理店は、西洋料理店、日本料理店、東洋料理店、エスニック料理店の4分野をまとめたものであり、分野毎に調査を実施している。

給食

景気悪化による工場集約や海外移転、人員削減により産業給食が、少子化により学校給食、幼稚園・保育所給食、学生食堂が、病院数減少により病院給食がそれぞれ減少しており、市場全体としてもマイナスである。

2011年は、産業給食では、震災による給食事業者や供給先の工場被災や操業率の低下などで食事数の減少が見込まれる。この他、幼稚園・保育所給食においては、成長期での放射線の影響を危惧する保護者の意向により、幼稚園や保育所から給食事業者へ調理に使用する水や食材などに対しての問い合わせが増加しており、放射能検査などの対応に追われている。

唯一、市場拡大が期待できるのが高齢者福祉施設給食である。高齢者福祉施設では特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホームなどの新規開設、さらに自家調理から給食の民間への委託が進んでおり、2011年は前年比2.5%増の5,200億円が見込まれる。しかし、介護保険制度では在宅介護に重点を置いており、今後はデイサービスやグループホームなど、給食需要が小さい施設の増加が見込まれる。また、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホームは新設ペースが鈍化しており、今後は給食事業者間での競争が激しくなるとみられる。

宿泊宴会場

およそ80%を占めるホテルや旅館の市場縮小により、毎年1~2%程度のマイナスが続いている。2011年は、羽田空港国際線就航や東北・九州新幹線の全線開通などで需要の回復が見込まれていたが、震災による予約キャンセルやイベント自粛などで、需要が一気に冷え込んだ。福島第一原子力発電所の事故の影響を懸念する外国人旅行者の訪日取り止めなどにより宿泊施設の稼働率が落ち込み、市場は前年比7.5%減の3兆7,675億円と縮小する見込みである。

以上

<調査対象>

ファミリーレストラン(FR)	標準型、高価格型、低価格型、和風、イタリア、中華、ステーキ・ハンバーグ、チャンポン、バイキングレストラン	
喫茶	コーヒーショップ、低価格型コーヒーショップ、高価格型コーヒーショップ、喫茶店・コーヒー専門店、紅茶専門店、フルーツパーラー、ベーカリーカフェ、甘味処、ジューススタンド	
専門料理店	西洋料理店	フランス料理、イタリア料理、高級イタリア料理、パスタレストラン、アメリカ料理、ドイツ料理、スペイン料理、ステーキ・ハンバーグレストラン、シーフードレストラン、オイスターバー、オムレット・オムライスレストラン
	日本料理店	そば・うどん、そば居酒屋、すし、うなぎ、てんぷら、とんかつ、すきやき・しゃぶしゃぶ、料亭・割烹、豆腐料理、低価格ふく料理、かに料理、ちゃんこ料理、もつ鍋、お好み焼き
	東洋料理店	韓国料理、焼肉料理、ホルモン料理、高級中華料理、一般中華料理、点心料理
	エスニック料理店	メキシコ料理、インド料理、東南アジア料理
給食	産業給食、学校給食、病院給食、高齢者福祉施設給食、有料老人ホーム、幼稚園・保育所給食、学生食堂	
宿泊宴会場	ホテル、ビジネスホテル、結婚式場・宴会場、旅館、民宿・ペンション	

<調査方法> 富士経済専門調査員による対象企業及び関連企業・団体等への直接面接取材と文献調査による補完

<調査期間> 2011年5月~7月

資料タイトル	: 「外食産業マーケティング便覧2011(下巻)」
体 裁	: A4判 218頁
価 格	: 98,000円 (税込み102,900円)
調査・編集	: 富士経済 東京マーケティング本部 第一事業部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発 行 所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/